剣風

題字：細川武敏（41期）筆
ＯＢ会報誌第２１号
平成２５年１２月１日発行
制作：会報編集委員会
(株)上田ワードプロセス企画
TEL. 0268-23-1122（代）

秋日に想う

会長　羽田敏幸（六十一期）

十年前に狭心症で心臓の手術をしてから竹刀を握ることから遠ざかっていた。三年程前に上小剣連の仲間から週二日、朝六時から一時間の形稽古に誘われ参加し始めた。皆六十を過ぎて仕事の一線を退いた仲間で、あくまでも健康第一で無理はしないことが原則である。前半は柔軟体操・ストレッチング、素振り・切り返し・打ち込み、後半に「木刀による基本技」と「日本剣道形」の稽古となる。若い頃は相手よりいかに早く打ち、勝ちを得るかだけを求めた竹刀稽古中心で、恥ずかしながら木刀での形稽古は段審査の前にするぐらいでほとんどしてこなかったのが実情である。明治の剣道家によって大正元年、流派を越えそれぞれの長所を生かしてまとめられた太刀七本、小太刀三本の形が現在の「日本剣道形」である。この稽古を始めたことにより、「剣の理法」「剣の理合」と、その奥の深さの一端に触れることができたような気がする。

そんな折り、十一月三日、全日本剣道選手権大会をテレビ観戦した。決勝戦での内村良一錬士六段は終始積極的な攻めの剣道で、五分を要せずコテ二本を連取して三度目の優勝に輝いた。

思い起こせば七年前の平成十八年六月、剣道班創部五十周年の記念行事にＯＢの宮坂信之氏（６４期）の縁で警視庁剣道主席師範の梯正治範士をお招きしたとき、一緒に警視庁の若き二人の剣士を同道された。前年の選手権大会で優勝した原田悟、この年優勝の内村良一の両剣士である。まさに実力日本一の剣士二人が本校を訪れたのである。宮下杯を観戦された後、梯先生立会いの下に両氏の模範稽古が行われその迫力に現役生は圧倒され息を呑んで見入っていた。その後の稽古会ではお三人にも元立ちに立っていただきＯＢ・現役生ともに貴重な経験を得ることができた。全国に数多くの高校剣道部があるが、全日本の選手権優勝者二人がそろって現役生と稽古をするなど稀有なことであろう。

場所を変えての講演会で梯先生は「剣道は技のみではなく、指導力・人格などバランスのとれた人間」を目指すべきであり、そのような剣道人を育成しなければならないとの趣旨のお話をされたと記憶している。懇親会でも日本を代表する二人の剣士は最後まで節度ある態度ですがすがしさが漂っていた。この日は、剣道班の歴史に記念すべき一頁を刻んだ日となった。

このお二人は更に修行を重ね、優れた指導者となり平成を代表する剣道人となることでしょう。

左：内村良一先生、中：原田 悟先生、右：羽田
平成１８年６月剣道班創部五十周年祝賀会にて

北信越大会に出場して

三年　竹内　公実子

悔いの残る結果で終わった東信大会後、もう一度皆で気持ちを立て直し「絶対に諦めない」という強い気持ちと、神津先生がおっしゃった「笑って帰ってこよう」という言葉を胸に県大会を迎えました。

女子予選リーグは、今年の選抜予選大会準優勝の松商学園との試合に望みをかけました。「皆でつなげよう。最後の試合には絶対にしない」と円陣を組み、心をひとつにして試合に臨み、先鋒が大きな一勝を挙げると、次鋒、中堅、副将と東信大会の迷いを払拭するかのような気迫の戦いで勝ち続け、その光景は鮮やかで感動的でした。そして私は、試合を待つ間、そばで応援してくれる男子の拍手と同時に、二階からの先輩方や保護者の方々の応援が確かに聞こえ、緊張の中にも不思議な程の安心感を得て「大丈夫」と背中を押していただき、試合に向かうことができました。結果は全員が勝利し、五人で八本を取る最高の戦いができ、その後、全国大会の夢は破れましたが、県四位で三位の男子と共に北信越大会の出場権を獲得する事ができました。

試合後の神津先生の涙、鈴木先生や先輩方、保護者の方々の笑顔を見て、今まで温かく支えてくださった、たくさんの方々のお陰で今日の喜びがあると実感し、感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、涙が溢れました。

敦賀市で行われた北信越大会は、チームの集大成という思いで臨んだ大会でしたが、他県チームの壁は厚く、男女共予選リーグ敗退という結果に終わりました。しかし、最後までやり切った私達三年生は、自分自身に納得し、仲間に感謝をしながら笑顔で引退することができました。

一、二年生には、私達が叶えられなかった全国大会出場という高い目標を持ち、自分と仲間を信じ頑張ってほしいと願っています。

そして私達三年生は、上田高校剣道班員という誇りを自分の力にして、真直ぐ前を見据え、大学受験に挑んでいきます。

三年　茂木　凱貴

私は、この北信越大会に特別な思いがありました。それは、県大会では最後まで選手として戦い抜くことができず、この大会に出場を果たすことができたのは仲間のおかげであり、その仲間のために上田高校が大切とするチームが一丸となって戦う試合をすることでした。結果は、北信越の壁は高く一勝を上げることはできませんでしたが、最後の公式戦として悔いのない試合ができました。

先輩方が続けてきた北信越出場を私達の代でも果たすことができ、仲間の大切さや感謝の気持ちをもつことなど試合に勝つこと以上に大切なことを多く学んだ大会となりました。是非後輩達にも北信越、さらに上のインターハイへ行ってほしいと思います。

最後になりましたがこの大会をはじめ、今までご指導ご支援いただいた先生方、ＯＢの先輩方、保護者の皆様にこの場をお借りしてお礼を申しあげます。本当にありがとうございました。

活動報告

（前）幹事長　竹内茂直（七十二期）

事務局より平成二十五年度のOB会活動につきご報告いたします。

まず恒例事業である宮下杯・稽古会・総会ですが、5月の役員会打合せを経て、ご案内の通り今年は6月22日にOB会員22名のご参加のもと開催されました。

例年通りまず上田高校体育館において、OB会員のご協力のもと現役生による宮下杯争奪戦が行われました。今年は62期飛田武昭氏に審判長をお願いし熱戦が繰り広げられました。大会の結果につきましては別掲記事のとおりです。大会後現役生・OB合同の稽古会を行い、引き続き上田温泉祥園に会場を移しての総会・懇親会となりました。総会につきましては61期羽田敏幸会長のご挨拶に続いて、67期工藤武和氏を議長に選出、24年度事業報告・決算報告、25年度事業計画・予算につき順次審議のうえ事務局案通りご承認をいただきました。

また今年は二年ごとの役員改選期に当たることから、新役員についてご審議いただき、羽田会長を中心とする新役員体制をご承認いただきました。

引き続いての懇親会は、大先輩である46期井出賢次氏の乾杯に始まり、和やかな歓談のうちに67期金澤信男氏の万歳によりお開きとなりました。

今年は宮下杯・総会を通じ例年に比べて参加者が少なく、いささか寂しい会となり残念に思いました。ただ参加世代は46期から111期と幅広く、ひざを突き合せての懇親会は予定時間を大分オーバーしてなかなかの盛り上がりとなりました。今後とも同期・お仲間の皆様もお誘い合わせ、多数のご参加をお願いいたします。

さらにもう一つの事業である「剣風」の編集にあたりましては今年も担当役員を中心に、企画・原稿準備・編集を進め、今回の発行に至っています。内容についてはまた会員皆様のご感想・ご意見もお寄せ頂ければ幸いです。

次に運動部OB連合会事業への参加についてですが、1月の幹事会に続き2月24日に総会が開催され当会も参加しました。総会に先立って恒例の幹事班OBによる講演会が行われましたが、柔道班75期春日啓孝氏他4氏による演武を含めた内容で、全国大会で入賞を続けている皆さんによる柔道技の実演はなかなかの迫力でひきこまれるものがありました。なお、今回の総会で連合会幹事は柔道班からバレーボール班に引き継がれました。また、連合会恒例の春秋2回のゴルフコンペには、会員有志のメンバーで本年も参加しております。

最後に会員の皆様には、引き続きOB会活動へのご支援・ご参加をお願い申し上げまして本年の活動報告とさせていただきます。　以上

幹事長退任の挨拶

（新任）監査　竹内茂直（七十二期）

この度総会での役員改選により幹事長を退任することとなりました。

4年前の役員会の席で突然幹事長をとのご指名をいただきました。その席におられた前OB会長の阿部先生は私の中学時代の剣道部顧問、また現会長の羽田先生は高校時代の剣道班顧問ということもあり、とまどいながらではありましたがこれもご縁とお引き受けした次第です。ただ短期間のワンポイントリリーフのつもりが、思いがけず早や4年間が経ってしまいました。

ともあれ役員経験も浅く、OB会活動についてはわからないことばかりでしたので至らない点が多々あったと思います。そうした私が何とか任期を全うできましたことはひとえに会員の皆様、そして特に羽田会長始め役員皆様方のご指導・ご協力のおかげと今はただ感謝申し上げるばかりです。

御礼と併せて、会員皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りいたしまして、甚だ簡単ではありますが退任のご挨拶とさせていただきます。

～随筆・和親記より～
針塚賞と毘沙門堂

信州大学　大学院総合工学系研究科
教授太田和親（百一期太田朝裕・父）

信州大学繊維学部では2004年3月の卒業式から、各学科1名、学業人物共に最も優秀なる卒業生を、顕彰するために「針塚賞」（※1）を授与することとなりました。この賞の由来は、繊維学部の学祖、つまり上田蚕糸専門学校の初代校長の針塚長太郎先生に因んでいます。

針塚先生は大変に立派な方で、当時の勅任官、つまり天皇陛下の勅令により赴任した校長先生であった様です。そのため、従三位を、後に正三位を、国から授けられています。昔、私の高校の化学の先生は、戦前の広島高等師範学校卒で、勅任官だと言われていました。戦後生まれの私達にはよく解らなかったので、同僚の老先生に説明して頂いたところ、勅任官というのは、天皇陛下の御命令（＝勅令）により、任官するもので、この場合任官と同時に、従五位とかの身分も与えられるのだと言うことでした。従って、勅任官というのはエリートというのと同義語であったと言うことでした。これは、奈良時代や平安時代から続く国家公務員のキャリア組を処遇する制度だったのだそうです。確か、今もこの制度は生きていると思います。昨年イラクで亡くなった奥大使も、殉職に報いて、はっきりとは覚えていないのですが、従四位とか何かを与えられたはずです。

このように針塚先生は勅任官で大変立派な方でした。同時に大変教養のある方で、書は誠に達筆でした。大教養人は達筆であるというのが、日本語のワープロが出来るまでの2000年間近く、万人の認める基準でした。先日、信州大学繊維学部図書分館の季刊紙Library< http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online/no49/1.html> に書かせて頂いたように、針塚先生の揮毫の書は繊維学部キャンパス内に、私の知るところ、2つ残っており、1つは農場の建物脇にある石碑「蚕霊供養塔」、もう一つは旧千曲会館の一階日本間にある掛軸「啄徒啄師（たくとたくし）」です。どちらも、実に流麗達筆で、大変感心します。

最近、日頃の運動不足を解消するために、私は休日テーマを決めて市内を長時間散歩しています。車に乗らず自身の足で、市内を歩き回ると、本当に色んなことを発見します。先ず、一ヶ月くらいは水辺を歩くのをテーマにして歩き回りました。市内の常田池や矢出沢川に、冬、沢山の鴨が飛来して越冬していることや、美しく歴史を感じさせる矢出沢川には、何と鴨ばかりか、大きな錦鯉も泳いでいることなど、今まで20年以上も上田に住んでいて全く知らなかったことなどがわかり、大変散歩が楽しいものとなっています。先日は、市内の神社仏閣をテーマに歩き回りました。

そこで、針塚先生の書を3つ、上田市内で偶然発見して大変驚きました。繊維学部のキャンパスの外でも3カ所、針塚先生の書が残っているのです。1つは、国分の上沢公会堂前の公徳碑の題字と本文です。本文横に「昭和十六年四月　正三位勲一等針塚長太郎撰並書」と明記されているのでわかります。もう一つは、シナノケンシの社屋が丁度見下ろせる丘の上に建つ愛宕神社、その中にある石碑です。昭和九年の愛宕神社改築記念碑の「記念碑」

上田蚕糸専門学校長・針塚長太郎先生
昭和七年（1932）十月二日（伊藤家蔵）

という大きな書が針塚先生の手になるものです。この書の横にも「従三位勲二等針塚長太郎敬書」と明記されています。さらにもう一つは、常田地区にある毘沙門堂の入口に建つ石柱2本のうちの1本です。右の石柱がそうで、「指定保存史跡　毘沙門堂阯　長野縣」という書です。石柱側面に昭和六年五月に建てられたとありました。その反対側の石柱側面には「従三位勲二等針塚長太郎書」とやはり明記されているので判りました。

ところで、この毘沙門堂は、私は今まで知らなかったのですが、「信州の松下村塾」（※2）と言ってもいい、日本の歴史上、大変重要な所だったようです。何故か余りにも知られていないのが残念に思う程でした。幕末に活文禅師という大学者のお坊さんが、ここで私塾「多聞庵」を開き千余人もの弟子を教えました。その中に幕末活躍した偉人佐久間象山（松代藩士、後に吉田松陰や勝海舟を教え、攘夷派に暗殺される。）や、英国式兵学者の赤松小三郎（上田藩士、京都で薩摩藩士に暗殺される。詳しくは季刊紙Library<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online/no51/1.1.html>）らが、この活文禅師の高い学識を慕って集まり、勉学に精励したというのです。活文禅師は長崎や江戸で学び、和漢蘭の三つの学問に通暁していたようです。そして、伝えられるところによると、活門禅師は、日本の詩文ばかりか中国語もぺらぺらで、さらに蘭学による天文数学も出来て、一弦琴も弾いて教えたし、彫刻も一流で、これら全部をたった一人で教えたのだというのです。レオナルド・ダ・ビンチみたいな人ですね。そして、弟子の佐久間象山とは深い師弟愛で結ばれていたそうです。碑文によれば、佐久間象山がさらに江戸に出て学問を究めることにしたとき、出発前にこの私塾を訪ね、一夕恩師の活文禅師と共に詩歌を詠み、また大いに語り合ったそうです。そんな有名な人を教育した大学者がこんなひなびた所にいたのかと思うと、大変感動しました。もっと日本国中に有名になってもいい史跡と思いました。さかのぼると、吉田松陰→佐久間象山→活文禅師という流れが見えてきます。つまり、松下村塾をたどると、この信州上田の毘沙門堂が源になるのです。皆さん、ここが日本国中にもっと有名になっていいと思いませんか？

活文禅師遺跡　毘沙門堂跡（上田市常入）

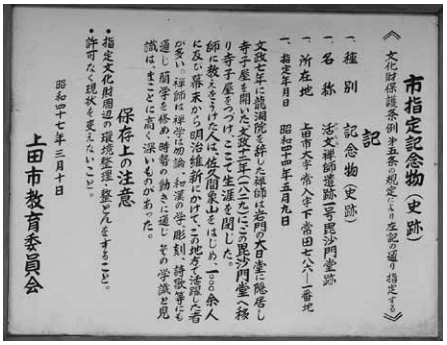
この活文禅師が亡くなって、八十年ほど過ぎた昭和の初期、常田地区の方々が、禅師が大教育者であったことを顕彰するために、ここに碑を建てました。そして入口には史跡であることを示す、石柱があり、この文字を、後世の大教育者であった針塚先生に頼んで、書いてもらったらしいのです。針塚先生が如何に当時の市民からも敬愛されていたことを示す出来事ではないかと、私は1人、毘沙門堂の前で思いました。

なお、境内には、二つの碑、「鳳山禅師追福之碑」と「龍洞鳳山禅師碑文」があります。2つとも昭和3年に常田地区の有志の方々の募金で建てられています。追福之碑は、漢文書下し文の名文で、読んでみると、大教育者の人格を彷彿とさせ、大変感動します。また、禅師碑文には、何と佐久間象山の直筆の篆額（篆字による表題）が揮毫されています。こんな所に幕末の偉人の直筆があるなんて、何で今まで知らなかったのだろうと、悔やむほど感激します。針塚先生も、きっと二人の偉人の学識に感激して入口の石柱の書を引き受けられたのではと思いました。

「針塚賞」（※1）が信州大学繊維学部に2004年3月から復活されたのを機に、以上のことを皆様にも是非知って頂きたく筆を執りました。毘沙門堂は信州大学繊維学部からも近くです。教職員の皆様、あるいは学生大学院生の諸君、是非、訪ねてみてください。

～（後略）～

（※1）（※2）の補足説明については、インターネットに公開されております『太田和親著：和親記 http://www13.ueda.ne.jp/~ko52517/ をご覧ください。著者のご承諾をいただき、原文に手を加えずそのまま転載しました。



市指定記念物（史跡）

《文化財保護条例第五条の規定により左記の通り指定する》

記

一、種　別　記念物（史跡）
一、名　称　活文禅師遺跡毘沙門堂跡
一、所在地　上田市大字常入字下常田七六一番地
一、指定年月日　昭和四十四年五月九日

文政七年に龍洞院を拝した禅師は若門の大日堂に隠居し寺子屋を開いた文政十三年（八十九）ここに毘沙門堂を移り寺子屋をつづけ、ここで生涯を閉じた。

師に教えをうけた人は佐久間象山をはじめ、一千余人に及び幕末から明治維新にかけて、この地方に活躍した若き多くの禅師は禅学に加論、和漢の学、彫刻、詩歌筆など通じ、簡学を修め時勢の動きに通じ、その学識と見識は、まことに高く深いものがあった。

保存上の注意

・指定文化財周辺の環境整理、整とんをすること。
・許可なく現状を変えないこと。

昭和四十七年三月十日

上田市教育委員会

史跡指定の説明文（上田市常入）

訃報

OB会顧問の萩原秀治氏（39期）が九月十二日逝去された。享年九十一歳。

氏は昭和三十五年、戦後最初のインターハイ出場を機に組織された後援会の中心として剣道班の後援活動を支えてこられ、平成五年、現在のOB会に改組されてからも顧問として会を見守っていただいた。

上中時代の昭和十四年、高野佐三郎の修道学院主催の全国中等学校剣道大会で三回・四回・決勝戦を先鋒として、一人で九人を抜き上中を優勝に導いた輝かしい武歴の持ち主である。

ご冥福をお祈りいたします。

OB会役員改選について

幹事長（新任）　77期　山崎　完爾

今年度から幹事長でお世話になることになりました、山﨑完爾です。昨年度まで会計でお世話になっておりましたが、引き続きの大役でとまどっています。この任期中に、何か一つ、この会のためにできる事を考えていきたいと思っています。皆様のご協力をいただきながら務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

副幹事長（新任）　86期　唐澤　信広

精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

副幹事長（新任）　86期　吉田　昭雄

（注：吉田さんは仕事中の事故で重傷を負い現在療養中です。ご回復を祈ります）他新任役員がおりますが、挨拶文は割愛させていただきます。

平成25・26年度　役員

顧問	54期	桑沢	俊猛
〃	56期	阿部	祐之
会長	61期	羽田	敏幸
副会長	65期	若林	健
〃	67期	工藤	武和
〃	71期	柳沢	収
〃（新任）	76期	佐藤	博
幹事長（新任）	77期	山崎	完爾
副幹事長	75期	渡邉	隆信
〃	80期	正村	聖美
〃	82期	近藤	敏朗
〃	86期	柳澤	哲
〃（新任）	86期	唐澤	信弘
〃（新任）	86期	吉田	昭雄
会計（新任）	87期	金森	健志
監査（新任）	72期	竹内	茂直
〃	84期	坂戸	由恵
参与（顧問）	77期	神津	純

『OB座談会・上田中学（1920年～）と上田松尾高校時代（1948年～）編』

今回は、上田中学校時代のお話を井出賢次先生（46期）に、上田松尾高等学校の剣道班の始まりを桑澤俊猛顧問（54期）にお聞きしました。

【司会】井出賢次先生のプロフィールをお聞かせください。

【井出】昭和三年生まれ。（旧）東部町和村出身。旧姓は大塚。上田中学に昭和十六年に入学、同二十二年卒業、東京高等師範学校を卒業して教師になりました。昭和三十二年から昭和四十年まで上田高校に赴任した。上田中学三年の時に予科練に入隊し、十五期特攻隊として十月出陣予定だったが八月に終戦を迎え、飛び立つことはありませんでした。出陣していれば、今ここには居ませんね。

【司会】当時の稽古時間や、活動はいかがでしたか。現在は剣道班と呼称しますが、先生の当時も剣道班でしたか。

【井出】当時は剣道部と言っていましたね。冬の寒稽古は、上田中学の正科で学ぶ生徒の朝稽古が七時から八時まであり、剣道部はその前に、朝六時から七時まで稽古がありました。私は和村でしたから家を五時頃に出発しないと間に合いませんでした。当時部員は二十人で、指導に伊藤長三先生がいらっしゃっていました。防具は授業でも使いましたので、竹胴などが揃っていました。剣道部員は個人で防具を持っていました。

【司会】途中で予科練にいかれたとのことですが、戦中と戦後の剣道部はどうでしたか。

【井出】戦況が厳しくなった三年生の八月に甲飛予科練生として土浦航空隊に入隊し、その後終戦を迎え、昭和二十年九月に除隊し復学しました。八月二十四日に剣道関係の教科は全面禁止になっていたので武道具は片付けられ、その時、部の稽古はありませんでした。伊藤長三先生が部員を集められ、直筆の短冊と、最上級生には木刀を下さった。その時いただいた木刀は今も大切にしています。

【司会】伊藤長三先生との思い出をぜひお聞かせ下さい。

【井出】真冬の朝稽古の時、伊藤先生に小手を決められると、それはそれは痛くて、いつも竹刀をポロッと落としたね。あの痛さは今でもよく覚えています。当時は左小手もよかったので、毎回左小手狙いでした。でも、伊藤先生に直接稽古をつけてもらえるのはうれしかったです。

【司会】試合は、どうでしたか。

【井出】明治、大正の頃は、団体として活動しているところが少なかった為、上田監獄の職員、警察官等年齢の違う団体と試合を行なっていました。昭和になってから高校同士の対抗試合の大会になってきました。上田城址公園の松平神社の近くに剣道場がありました。

【司会】上中当時の一日の日課は。

【井出】週に二日は授業で武道の時間があり、朝七時半から三時頃まで授業。その後剣道部の稽古が五時まで。帰宅するのは六時だったかと思う。

【司会】44期には44－4期卒と44－5期卒がありますが、あれはどういう事でしょうか。

【井出】旧制学校は尋常高等小学校が六年、その後高等科に進む者は二年、中学に進む者は五年で卒業だった。ところが戦争の影響で44期は四年間で強制的に繰り上げ卒業させられた生徒がいて44－4期卒と言った。五年間で卒業した者が44－5期ということです。

【司会】桑澤俊猛さんのプロフィールをお聞かせください。

【桑澤】長野県上田松尾高等学校に、昭和二十八年に入学、昭和三十一年に卒業。現在、宗叶寺住職。

【司会】剣道班を立ち上げた経過を教えてください。（編集部注：上中時代は『部』と称したが、新制高校の時代以降、『班』と呼称するようになった）

【桑澤】剣道やろうと思ったのは、上田警察署に宮沢さんという刑事が居ていつも寺へ来てお茶を飲んでは世間話をしていた。その刑事は段持ちで、警察で剣道を教えてると言った。「剣道やりてえな」と言ったら「警察へおいで」と誘われた。また当時、警察官が二人程寺の離れに下宿して自炊していたが、彼らは毎日剣道やっていたしね。それで警察の道場に行くようになった。しかし、誘った割りには、その刑事は道場に立った事がなかった。刑事っていうのは時間がないんだよね。でも寺にはしょっちゅう来てお茶を飲んでいた。それで「じゃ、本堂で教えようか」という事になった。当時寺は火事を出した後建替えた後で、本堂には装飾物が何も無かったからね。それからは毎日来て、ちょこちょこっと教えてくれた。

また、裏に警察官に代わって自炊するようになったのが定時制の先生で、横谷先生と親しかった。それと親父が定時制の教師をしていた為、荒木先生と関わり合いができ、学校内部の事や外に対していろいろなサジェスチョンをいただけるようになった。高校生の時だった。

その頃、毎日寺へ来ては自分の家のような顔をしてメシを食べていた図々しい男がいた。柔道で国体にも行った内山という彼だった。その内山と友達が、上田田の堀内三喜男君（一年下だったが年齢は同じだった）で、剣道初段だった。堀内君を誘って寺で稽古をするようになった。

そこでやはり高校で剣道ができるようにしたいという事になり、自分は三年生だったが、昭和三十年秋にクラブ（同好会）としてやっと認められた。担任からは「普通三年になったらやめるのに、三年になって部なんか作ったって率いるなんて、どうなってもしらんぞ」と言われた。「僕はいいよ」と答えた。それで十人位で、本堂で練習するようになった・・・というのが剣道班創設のいきさつかな。クラブとして認められてからは、本堂での稽古は無くなった。ジュウタンも張られちゃったしね。

【司会】クラブが発足して、道場が使えるようになったんですか。

【桑澤】クラブとして認められてからは、荒木先生がいろんな工作をしてくれて、曜日別とか時間別で、また四分の一を空けてもらうとか、「先生まで協力してんじゃしょうがねえな」と渋々「譲り合い」で使わせてもらった。こっちは譲り合いと言ってたが、あっち（卓球やサッカーなど従来から道場を使っていた班）は大きな迷惑と言っていた。剣道が道場を使うようになって、卓球のキャプテンなど同級生だったので随分恨まれた。当時の一・二年生からも「どれだけ迷惑したかわからん」と言われ、どうにもならない人間関係に発展して、とうとう校長の所まで「剣道なんとかしてくれ」と話しがいったりもしたらしい。

【司会】班員や、指導の先生は、いかがでしたか。

【桑澤】54期は私一人で、後輩は十七人いました。指導にはOBの依田嘉人、塚原忠雄、宮下力の各氏が見えられた。荒木豊治先生が正顧問でした。

【司会】私たちの時代には、剣道場はかなり傷んでいたのですが、当時はいかがでしたか。

【井出】上中時代床は磨き上げてあり、広く使われていた。

【桑澤】サッカー班が雨天練習場として使ったり、卓球班が使っていたため、かなり痛んでいました。特にサッカーは靴が堅くて床には良くなかったね。

【司会】後輩たちに向けて、メッセージなどありましたら、お願いします。

【井出】努力一筋。

【桑澤】学ぶことは大切だが、特に自分以外の人から学ぶことは大切。人を大切にすることに繋がっていく。

【出席者】井出賢次氏（46期）
桑澤俊猛氏（54期）

【司会】佐藤　博（76期）

【記録】正村聖美（80期）

右・井出賢次氏　旧制上田中学卒（46期）
左・桑澤俊猛氏　上田松尾高校卒（54期）
宗叶寺にて

剣道今昔

「今」平成二十五年

顧問雑感

神津　純

OB のみなさまのご支援に衷心より感謝申し上げます。

県総体予選では男子が順当に勝ち上がり、決勝進出はなりませんでしたが三位決定戦をものにし、新人・総体連続北信越大会出場を果たしました。また、女子は地区大会四位で県大会は選抜予選準優勝の学校と同じブロックに入る組み合わせでした。リーグ最終戦となる同校との試合を前に一勝一敗の成績で、決勝トーナメント進出のためには勝利が大前提。かつ一人でも多くの勝者が必要とされる試合で驚異の集中力を発揮し全勝。見事にリーグ戦を抜け出し、準々決勝ももものにし北信越大会出場を勝ち得ました。自分が見てきた中ではもっとも不安要素のあるチームでしたが、“世の中にできないことは何一つとしてない”ということを教えてもらいました。後輩にもこのことをしっかり受け継いでもらいたいと思います。

平成 25 年度戦績

新潟県春季剣道錬成大会 (4/1、2)
　男子 2 回戦　女子 1 回戦
三条杯剣道大会
　男子 1 回戦　女子 1 回戦
第 9 回謙信公杯争奪高等学校剣道大会 (5/4)
　男子団体 1 回戦　女子団体 4 回戦
第 153 回東信高等学校体育大会 (5/11、12)
　男子個人　滝澤冴毅 2 位　杉田竣 4 位
　男子団体　2 位
　女子個人　正村薫 5 位
　女子団体　4 位
長野県高等学校総合体育大会 (6/1、2)
　男子個人　滝澤冴毅 5 位
　男子団体　3 位
　女子個人　正村薫 5 位
　女子団体　4 位
北信越高等学校剣道大会 (6/15、16)
　男子個人　滝澤冴毅 2 回戦
　男子団体　予選リーグ敗退
　女子個人　正村薫　1 回戦
　女子団体　予選リーグ敗退
剣道班 OB 会第回宮下杯 (6/22)
　男子　1 位　滝澤冴毅　　2 位　杉田竣
　女子　1 位　深井美希　　2 位　正村薫
東信高等学校剣道選手権 (7/15)
　1 年　男子　我山能崇 2 位
　2 年　男子　杉田竣　3 位
　2 年　女子　正村薫　3 位
上小高等学校剣道リーグ夏季大会 (7/21)
　男子　1 位
　女子　1 位
玉竜旗剣道大会 (7/26、27、28)
　男子 3 回戦
第 7 回真田幸村杯剣道大会 (9/15)
　男子 3 位　女子　1 回戦
第 39 回東信青少年剣道大会 (9/29)
　男子 3 位　　女子 1 回戦
第 154 回東信高等学校体育大会 (10/19、20)
　男子個人　白鳥泰士 4 位　杉田竣 6 位
　男子団体　3 位
　女子個人　正村薫 4 位
　女子団体　4 位
第 21 回諏訪湖大会 (11/10)
　男子団体　2 回戦
　女子団体　1 回戦
平成 25 年度長野県高等学校新人体育大会 (11/16、17)
　男子個人　白鳥　杉田　1 回戦
　男子団体　2 回戦
　女子個人　正村　2 回戦
　女子団体　2 回戦

剣道今昔

「昔」明治三十九年

擊劍部記事

◉春季競技會（五月廿八日）筋骨たくましき幾多の士堅くよろひて立てり性行均淑威あつてたけからぬ森先生の令の本に競技は開かれぬ虚々實々秘に秘をつくして爭ふ士雷の如き掛聲沈として一瞬せざる姿勢しかも禮儀を正しうせる小野田先生其人ありて始めて得らるゝの感あり、本日一本勝負三人勝上りをせし名譽の士は、岡田末雄町田暢夫安川彦五の三氏なりき

◉來劍士、六月廿日大日本武德會福井支部小關教政氏の門人心形刀流中本茂長氏諸國修業の途次小野田先生を訪はれ先生を介えて我部員と稽古せんことを求めたれば吾等は喜び迎へて之に應じ互に技を闘はせり最後に小野田先生と見事なる試合をなせり

◉秋季競技會（十月卅日）小野田先生の審判の下に開かれぬ未曾有の盛會にて木刀手にして立ち上りし士は何れも偉丈なる士殊に山本翠川兩氏の如き誠に當日の花なりき而して近縣にその名を轟かせし我擊劍部はさすがに今日の華を集めぬ殊に禮式の正しきと勝負に正にしてむさぐるしからざるとは武士道の魂を表はせる感あり諸子それ長く此美風を保たれよ

此日一本勝負三人勝上りの勝者は山邊重平町田暢夫吉池今朝儀の三氏なり、

十一月三日成績優等として金銀牌を授與せられたるは左の六氏なり

金牌　山本亮助

銀牌　翠川國平　吉池今朝儀　富山賢三　安川彦五　町田暢夫

◉聯合運動會　十月十五十六兩日長野縣師範學校内に第五回信濃中等學校聯合運動會は開かれぬ吾々こそこの晴の舞臺に於て縣下第一の名譽を得めとの「アンビッション」をもてる劍士等四十八名其の面々嚴をも貫く勇氣あり鬼をも走らす剛毅あり而して審判者には警視廳範士得能關四郎先生表審判の勞を取られ裏審判とえては我校教士小野田伊織先生其の勞を取られたり、

勝（富山賢三（上中）
　（上山貞雄（飯田）

富山氏は我校新進の若武者如何とためらふに名にきこえたる敵の荒武者とはいへいかでおくすべき雷の如き掛聲にドット切り込み敵の胴は眞二つ續いて小手切り落し勇ましく歸る

勝（翠川國平（上中）
　（矢崎愛邀（諏中）

豪雄偉大の我翠川氏諏訪の勇將矢崎氏と火花を散らして各に秘に秘をつくして戰ふ其勇壯活潑實に見事なりき翠川氏老練の技を出し見事敵を切り伏せて悠然凱旋す、

勝（吉池今朝儀（上中）
　（中澤　權造（松中）

吉池氏初陣の出でたち華かに、敵は松中屈指の中澤氏能き敵ごさんなれとかけ合せかけ離れ戰ふ中見事敵の小手ぬきたりしが敵の切り込む面うけがたく復も面を切られてあたら蕾は地に落ちぬ、

勝（山本　亮助（上中）
　（近藤與次郎（長中）

我校の御大將山本氏に向ふものは誰れ、黒革威に身を固めたる輕捷の勇將長中の近藤氏なり敵も味方も劣らずの早技山本氏見事敵の小手切り落したるも山本氏の運や惡しかりけん敵の技や勝りけん二度面取られて無念の涙飲んで戰場を退きぬ

勝（倉澤　直憲（上中）
　（櫻井群三郎（大中）

敵は大中の御大將櫻井氏味方は我校に其人ありと知られたる倉澤氏大音呼號、進退の敏捷快刀振ひ戰ふ樣勇えとも勇しゑ見事横面も成功しけり敵も中々に戰ひえが其力や足らざりけん倉澤氏血潮えたゝる秋水拭ひつゝ凱旋す

三本勝負は終りをつげ次に最優勝者を定めんが爲め一本勝負三本拔を行ひたるに優勝者六名を出えぬ即ち松中二人長中二人野中一人上中山本氏而して此の中最優勝者を出すこそ實に見物なり嗚呼最優勝者松中か？長中はた野澤中か？否名譽ある縣下第一の名は我校山本氏に歸したり前後數回或は松中或は長中或は野中入り代り立ち代り山本氏に對したれども山本氏精力絶倫最後迄力盡きず皆切り伏せたり、此れ氏の名譽は云ふに及ばず我校の名譽小野田先生の名譽吾等撰手の共に擔ふべき名譽氏の力實に偉大なりと云ふ可し然りと雖も亦小野田先生が薫陶其の宜しきを得たるの功といはざるを得ず

翠川、倉澤、富山三氏は師範校より銀牌各一箇を授與せられ山本氏は日本武德會長野支部より金牌一箇信濃体育會より銀牌一箇信濃毎日新聞社より漢和大辞林一冊長野新聞社より新聞一ヶ月贈らる

（終り）ＫＹ生

剣道班・アーカイブス

当剣道班ＯＢ会では、明治～大正～昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。それらの中から貴重な写真を紹介する。

※伊藤長三先生（1881～1949）は、旧上田藩士伊藤家の長男として出生。篠原邦人・小野田伊織範士について、神道無念流を研鑽され、高野佐三郎範士の門下に入り、小野派一刀流の奥儀を極めた。明治44年（1911年）に、三十歳で、上田中学武道教師に就任。三十六年間、剣道師範として指導にあたる。敗戦により剣道は排除禁止となり、昭和二十一年（1946年）三月退職。（『古城とともに』より）

昭和七年（1932）十月二日、伊藤長三先生の勤続二十年謝恩祝賀会　上田中学校門前にて

（伊藤家蔵）

上田中学時代の剣道場
この道場は上田松尾を経て、現在の校舎に建替えられるまで使われた

当時の優勝旗だろうか、御旗が素晴らしい
上田城を背に伊藤先生他当時の剣道部員

『上中』を形取った『紋』が誇らしげ
筆者の時代は『上田』紋の胴があった

会員のひと言コラム

通信欄（葉書及びホームページより）

4月より松本市の明善中学校にて剣道部の副顧問をしています。
（107期深町さや香）

七段審査に合格しました。詩吟、水墨画、書道と習い事が多く、多忙な毎日です。3月にトルコ・エジプト周遊11日間してきましたが、トルコはもう一度いきたいくらい良いところでした。
（62期飛田武昭）

週1～2回ではありますが剣道をつづけております。後輩のみなさんに会えるのを楽しみにしています。
（111期三井　楓）

子供たちの指導を中心に週4回は稽古しています。
（64期春原和民）

退職して子守りをしています。6月に長女の第二子、8月に長男の第二子出産をひかえています。
（72期田中美枝子）

この時期はぶどうの作業で大変忙しく、どうしても出席できません。ぶどう栽培生涯現役です。そろそろ体力的に「クタビレ」てきました。
（66期飯塚芳幸）

大学でも剣道を続けようとサークルに入りました。
（111期溝端悠大）

筑波大看護学類3年生在学中です。
（108期竹内　澪）

男女北信越大会出場おめでとうございます。昨年9月末、試合中にアキレス腱切りました。現在リハビリ中。まずは減量です。
（82期中沢道彦）

昨年は久しぶりのOB会で楽しいひとときを持たせていただきました。
（72期畑田美佐子）

諏訪実業3年目（2年生の担任）です。忙しい毎日です。
（105期小林まゆ子）

昨年より松本に転勤となり、少しずつ慣れてきました。
（74期山田恒昭）

私は元気に毎日を過ごすことが仕事であります。6月は毎週ゴルフの予定が入っており、忙しく生活しております。取あえずは大過なく暮らしておりありがたいことと思っています。
（57期田中義司）

四十歳での再就職、教員2年目となりました。ここ数年、県外在住者もいますが、年に一回同期の女性5人でランチ会をしています。集まれない年もありますが、末永く、いつまでも“仲間”でいつづけたいなと思っています。
（86期柳沢英子）

宮下杯優勝者の声

【男子優勝】三年百十二期　滝澤冴毅

過去の偉大な先輩方も出場された、この伝統ある宮下杯で優勝できましたこと、本当に嬉しく思います。

私は、上田高校剣道班がインターハイ出場を果たした翌年、入学し入班しました。私は上田高校剣道班の一員になったことへの誇りを感じながらも私が中学まで剣道をしてきた中で全国を目指す、という状況に置かれたことはなかったため、道場にある「全国への挑戦」という言葉に違和感さえ感じていました。しかし一緒に練習を共にした先輩方のインターハイへの強い情熱に引っ張られ、自分自身もいつしか本気でインターハイを目指すようになりました。このことは、本当に大きな経験となりました。しかし先輩方が引退され、自分達の代となり試合を重ねていく中で、どこかそれまでとは違った

感情が心の中にあることに気付きました。それは、インターハイへの思いの欠如です。日に日に相手チームに越えられない壁を感じ、大会での三位四位といった結果に満足してしまう自分がいました。ベストを尽くした自分を褒め、「てっぺん」を取れない自分を悔いることが出来ずにいました。最後の時、私はこの思いを変えることができず心の中で県三位という結果に満足してしまいました。これは自分の中で不完全燃焼として残りました。後悔のない終わりを迎えるのは難しい。ただ、準備段階で後悔を残さない――先輩方はそうだったはずであり、私のこれからの大きな課題となりました。

わたしにとって上田高校剣道班での三年間は充実した時間でした。心から憧れ、越えたいと思える人にも出会えた事も大きな宝となりました。

最後になりましたが、この三年間、ご指導頂きました先生、共にすごした仲間達、そして両親、全ての皆さんに感謝したいと思います。

【女子優勝】二年百十三期　深井美希

私にとって二回目となる宮下杯。憧れであった上田高校で剣道をし始めてもうそんなに経つのだなと思いました。これまでの私の日々は上に立つ先輩方に支えられ、思い切り剣道ができるのとともに、先輩方の大きな背中を見て刺激を受け、一日一日が密度の濃いものになっていたと思います。そんな中でこの宮下杯で優勝できたことを嬉しく思っています。

現役生での試合後にOBの先輩方との稽古があり、先輩方と竹刀を交えていくうちに私達のうしろには多くの先輩方がついているのだということを改めて感じました。

宮下杯を終え、本格的に代替わりし、今度は自分達がチームを引っ張っていく立場となりました。先輩方がいた頃とは違った緊張感や不安というものを感じるようになりました。上に立ってきた先輩方の存在の大きさをひしひしと感じています。上田高校で剣道ができるのもあと半年。わずかです。今いる仲間達と精一杯インターハイを目指して尊く大切な日々を過ごしていきたいと思います。

普段から支えていただいているOBの先輩方、保護者の方々、ありがとうございます。ご支援ご協力に恩返しをするつもりで稽古に励んでいきます。

現役生の声

【班長】三年百十二期　春原光希

私は、この伝統ある上田高校剣道班で班長を務め、三年間剣道をすることができたことに大きな誇りを感じています。入班以来、様々な遠征や大会に出場する事ができ、本当に充実した三年間を送ることができました。

一昨年の春、剣道班に入班するという明確な意志を固めていなかった自分でしたが、道場で行われる稽古の張りつめた雰囲気を肌で感じ、剣道を続けることを決めました。一年次、二年次と稽古をする中で様々な事を学びましたが、その中でも一つの目標に向かって打ち込んでいく先輩方の背中はとても大きなものに感じました。そんな先輩方に追いつき、追い越したいという思いを抱き、私たち百十二期の代が始まったように思います。

班活動の上に立つ立場になって感じたことは、それが試合であろうと練習であろうと、全員剣道を貫く、ということの重要さです。これは先輩方が掲げてきたテーマでもありましたが、同じ立場になることで初めて本当の意味を分ったように思います。チームの仲間にもこれを実感してもらおうと口うるさいくらいに言ってきました。このテーマを体現するにあたり、困難な事も数多くありましたが、チームでの再確認を図りながら、稽古を重ねました。

迎えた夏の総体県予選、最後の試合は三位決定戦、地区予選決勝で敗れた相手でもありました。悔いの無い、チーム最高の試合を展開しようと臨み、大将戦にもつれこむ接戦となったが、最後はこれを制して三位に終わりました。目標の優勝には届きませんでしたが、ここに至る三年間の過程で剣道の技術だけではない多くの尊い経験が出来たことを本当に嬉しく思います。

最後に、指導して下さった先生方、OBの先輩方、またあらゆる面で支援して下さった保護者の皆様のおかげでここまで来ることが出来ました。本当にありがとうございました。

OB会の垂れネーム募集

夏のOB会総会の前に行われる稽古会、その他、母校に集まる際に、「OB会の名前を冠した垂れネーム（全剣連では今後名札と呼ぶそうです）を作りたい！」という声が若手OBから上がりました。それを作ることで連帯感が生まれたり、改めて母校剣道班のOBという誇りが生まれ、集いやすくなるならばとても良い提案だと思います。会の名称とは切り離して、「○○会」などと考えてみるのも楽しいかもしれませんね。提案した彼は「松尾会」と言っていたような・・・下記のホームページ内に掲示板があります。ふるって書き込みをお願いします。

上小剣連六十周年記念誌の頒布

地元の上小剣道連盟が昨年、創立六十周年を迎え、記念誌『古城とともに―上小剣道連盟の歩み』（B5判、317頁、上製本）を発刊した。羽田敏幸（OB会会長）が主に執筆した。上田中学の剣道教師小野田伊織、伊藤長三師、および新井守太郎師について詳しく掲載しており、上中・上田松尾・上田高校に縁のある剣士必読の書と言える。非売品で限定部数のみであるが、上小剣連の承諾をいただき、OB会員希望者に五千円で頒布します。（OB会への寄付金と送料込み、同封のOB会費送金と同じ郵便局口座へ。通信欄に『上小記念誌希望』と必ず記入の事。ただし限定部数の為、もし申込み殺到の場合は先着順になります。

OB会ホームページ　http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/
会員制掲示板ID：ueda　パスワード：1111

編集後記

今年の世相を表す漢字は「輪」だそうだ。現役生の作文を拝見すると「全員剣道」がテーマだったそうだ。「皆で繋げよう」「心を一つにして試合に臨む」という言葉を拝見するに付け、今年の漢字とぴったりだと感じた。苦しかったと思うが良く頑張った。今の私は、ひたすら一人で斯道修行を目指している『佐』

一月二日OB稽古会のお知らせ（有志主催）

日時　平成26年一月二日

●午後三時～稽古会　上田高校第二体育館（なお午後一時よりOB対現役の試合）

●午後六時～懇親会　大門町「ささや」（五時半より受付）会費5000円

※幹事（一〇八期）福澤　敬
090-3233-2040

来年度のOB会総会は6月21日（土）です

●来年度会費納入のお願い●
会費（三千円）およびご寄付の納入は、十二月末日までにお願い申し上げます。

○住所変更の方は幹事長までご連絡下さい。
七十七期　山崎完爾
〒386-0004
上田市殿城一三八八一四
もしくはホームページ管理人まで
kenshi-65@jupiter.sannet.ne.jp

kenpu_21-3ZM-700